



読書のすすめ

農・食・健康に関するものなど、おすすめの書籍をご紹介します。



アブラムシ おもしろ生態とかしい防ぎ方

谷口達雄著 1995年3月発行
農山漁村文化協会 1,368円(税込)

本書は、いっけん無防備そうに見える小さなアブラムシが厳しい自然をしたたかに生き抜く様相や作物に害をおよぼす仕組みを紹介すると共に、アブラムシの生態から解き明かした効果的な防除までわかりやすく解説しています。

アブラムシといえば、キッチンで見かける素速くて黒っぽいアブラムシ(ゴキブリの俗名)を想像される方もいると思いますが、ここでは野菜を吸汁するアブラムシ(別名アリマキ)について書かれています。集団をなし見た目には嫌悪感を与える虫としてレッテルが貼られていますが、その1匹をクローズアップしてよく見ると、体は可愛い西洋梨のような形をしていて、頭、胸、腹のくびれがなく、ふっくらとした愛らしさがあることがわかります。

わずか1か月で1万倍に増える驚異的繁殖力、怖いウイルス病の媒介、甘露(オシッコ)とスス病やアリとの関係、恐るべき薬剤抵抗性など、本書を手はじめにアブラムシの生態と病虫害の因果関係を理解し、観察と防除の組み合わせによってアブラムシ発生や被害の軽減、あるいはアブラムシが発生しない作物栽培の実現が可能になると思います。本書は20年前に出版された古い書籍ですが、植物の窒素含有量とアブラムシの関係や障壁作物・天敵利用などの観点から自然農法を目指す方にもお薦めの一冊です。



はじめましてモグラくん なぞにつつまれた小さなほ乳類

川田伸一郎著 2012年9月発行
少年写真新聞社 1,620円(税込)

国立科学博物館研究員で、日本で十人ほどしかいないモグラ研究者の一人である著者が、モグラの生物的特徴や生活史をはじめ、日本と海外のモグラの分類についても解説しています。

小学生向けの書籍ながら、モグラの実態を知るには十分な情報を備えています。日本に生息するモグラの種類は8種類で、そのうちの西日本のコウベモグラと東日本のアズマモグラの2種類が大半を占めていること、1日を8時間×3サイクルで生活していることなどを知ることができます。

特に、モグラは分類学的に「食虫目」に分類され、歯の特徴(切歯を持つこと)から完全な肉食で、腸が短く盲腸を持たない特徴から植物は食べられません。本書にも「モグラが畑を荒らすと言われているが、作物に被害を与える場合はハタネズミやアカネズミが犯人である」というように、モグラに対する誤解を挙げて、詳しく説明されています。むしろ害虫となるコガネムシやガの幼虫も好んで食べることがわかっており、土壌生物がつくる生態系のトップにあるモグラは、生態系のバランスを保つための大切な存在であると著者は主張しています。

私たちが日頃見ているナス・エンドウ・トマトなどの被害の状況を考えると、モグラを悪者扱いしたことを反省させられると同時に、新しい発見に出会える一冊です。